



軽防協ニュース速報

2018年第4四半期(10月-12月)の伝染病発生状況

2019年3月配信

(International Collating Centre からの情報)

2018年第4四半期の報告

アルゼンチン

ロタウイルス

2018年12月7日以降、ロタウイルスが1施設において、2～4か月齢の、繁殖用として繋養している子馬およびサラブレッド種の子馬10例で確認された。全頭ワクチン接種を受けていた。確定診断は農業技術研究所 (INTA) で行われた。

オーストラリア

報告未着。

カナダ

カナダの発生報告については、第1四半期以降の中間臨時報告として既に通知されていることに注意されたい。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告未着。

フランス

馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報。フランスの発生報告は、第1四半期以降の中間臨時報告として既に発表されていることに注意されたい。

ドイツ

有限会社 Dr.Boese 研究所 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

馬伝染性子宮炎(CEM)

2018 年第 4 四半期に、異なる 2 施設において CEM の発生が種牡馬 2 例（アイスランド種、温血種各 1 例）で確認された。確定診断は生殖器スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2018 年第 4 四半期に、同一施設において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が 5 例確認された。その馬らは発熱の症状を呈した。確定診断には鼻咽頭スワブを用いた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2018 年第 4 四半期に、異なる 2 施設において EHV-1 による流産の発生が 2 例確認された。確定診断には胎盤および胎子の肺穿刺材料を用いた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

2018 年第 4 四半期に、同一施設において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が 4 例確認された。その馬らは発熱の症状を呈した。確定診断には鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

2018 年第 4 四半期に、EVA の発生が温血種種牡馬で 1 例確認された。確定診断は、精液を用いた PCR 検査によってなされた。

サルモネラ症

2018 年第 4 四半期に、サルモネラ症が成馬で 1 例確認された。当該馬は下痢の症状を呈し、48 時間以内に死亡した。確定診断は、糞便を用いた菌分離と PCR 検査によってなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2018 年第 4 四半期に、異なる 4 施設において腺疫の発生が 4 例確認された。1 例には腹腔内膿瘍を、もう 1 例には顎下リンパ節膿瘍の形成を認めた。両症例とも確定診断は膿瘍検体からの PCR 検査によってなされた。他の 2 例は臨床症状を認めず、確定診断については、1 例は鼻咽頭スワブを、もう 1 例は喉嚢洗浄液を用いた PCR 検査によってなされた。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2018 年第 4 四半期において、2018 年 12 月 17 日を最後に EHV-1 による流産の発生が 4 例確認された。4 例のうち、2 例はキルデア州にて、2 例はティペラリー州にて確認された。確定診断は、PCR 検査によってなされた。診断は、アイリッシュエクワインセンターで実施された。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2018 年第 4 四半期の間、5 例の腺疫が報告された。確定診断は、従来法による菌分離と PCR 検査によってなされた。診断は、アイリッシュエクワインセンターで実施された。

イタリア

報告未着。

日本

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2018 年 10 月 18 日以降、サラブレッド種で EHV-1 による流産が 2 例確認された。2 例のうち、ワクチンを接種したのは 1 例のみであった。診断は、北海道日高家畜保健衛生所で実施された。

マレーシア

報告未着。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

旧大陸ラセンウジバエ (*Chrysomya bezziana*)

2019 年 1 月 2 日に旧大陸ラセンウジバエによるハエウジ症が 1 例確認された。同馬は蹄叉を受傷し、蹄腫が剥がれていた。ヨード水で傷を洗い流したときに幼虫が発見された。傷は局所的な治療および蹄に包帯を巻くことで、かなり迅速に治療された。

南アフリカ

本報告は、南アフリカ馬獣医師協会と共同で開発された報告システムを利用した検査機関と開業獣医師による報告に基づいている。その症例数は本報告に反映されているが、必ずしも公的機関を通じてなされた公式な総数が反映されているわけではない。同様に、ピロプラズマ病と EHV-1、*Gastrodiscus*（双口吸虫）症は公的な報告でないことに注意されたい。

アフリカ馬疫（AHS）

AHS 流行地域である東ケープ州とハウテン州、クワズール・ナタール州において、それぞれ単独の発生が報告された。例年の同時期と同程度の発生であった。

ピロプラズマ病

ピロプラズマ病が、ハウテン州（15 例）とクワズール・ナタール州（1 例）、西ケープ州（1 例）、ムプマランガ州（1 例）、フリーステート州（2 例）で認められた。

ウマヘルペスウイルス 1 型（EHV-1）

EHV-1 による神経型疾患の発生が西ケープ州で確認され、クワズール・ナタール州の研究所で確定診断された。

内部寄生虫症

2018 年 10 月に西ケープ州のケープ半島において、*Gastrodiscus* 属による寄生虫症の発生が 10 例報告された。2018 年 8～10 月の間に、最終的に 49 例が確認された。

韓国

2018 年、韓国における血清学のおよび qPCR を用いた検査が実施された。

韓国で飼養されている馬において、アフリカ馬疫（AHS）、水泡性口炎（VS）、馬伝染性貧血（EIA）、馬ウイルス性動脈炎（EVA）、日本脳炎（JE）、ウエストナイル熱（WNF）および馬インフルエンザ（EI）が存在している可能性について調査するために、血清学的なサーベイランスが行われた。

サラブレッド種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニーおよび乗馬を含む合計 1402 頭の血清が本調査に用いられた。血清の採取は韓国馬事会（KRA）によって行われ、検査は韓国動物・植物検疫所（APQA）によって実施された。結果は以下の通りである。

アフリカ馬疫

市販の ELISA キットにより全ての検体で陰性が確認された。

水胞性口炎 (VS)

市販の ELISA キットおよび中和試験により全ての検体で陰性が確認された。

馬伝染性貧血 (EIA)

市販の ELISA キットおよび寒天ゲル内沈降反応により全ての検体で陰性が確認された。

ウエストナイル熱 (WNF)

市販の IgM 捕捉 ELISA キットおよび中和試験により全ての検体で陰性が確認された。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

ワクチン接種により、市販の ELISA キット (VMRD : アメリカ) および中和試験によって 4 検体 (0.29%) が抗体陽性となった。

日本脳炎

ワクチン接種により、中和試験によって 1198 検体 (65.4%) が抗体陽性となった。

馬インフルエンザ

ワクチン接種により、HI 試験によって 1295 検体 (92.4%) が抗体陽性となった。

2018 年におけるピロプラズマ病およびスーラ病の血清学的サーベイランス

2018 年前半および後半に、サラブレッド種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニーおよび乗馬など、KRA の競馬場および民間牧場で繋養されている合計 1369 頭の血清を用いて、ピロプラズマ病およびスーラ病に対する血清学的なサーベイランスが行われた。検査は KRA によって行われた。結果は以下の通りである。

ピロプラズマ病(*B. caballi*, *T. equi*)

市販の cELISA キット (抗体検査キット : VMRD OIE 公認) により全ての検体で陰性が確認された。

スーラ病(*T. evansi*)

市販の CATT/*T. evansi* キット (AT&-PU : ベルギー) により全ての検体で陰性が確認された。

2018 年における馬伝染性子宮炎 (CEM) サーベイランス

KRA は <http://studbook.kra.co.kr> に登録されているサラブレッド種牡馬および繁殖牝馬 2236 頭の検体を用いて検査を行った。結果は以下の通りである。

馬伝染性子宮炎(CEM)

生殖器スワブを用いて行った qPCR により 13/2236 検体 (0.58%) が陽性となった[2017 年は 22/2171 検体(1.01%)]. 陽性馬は繁殖に供されておらず、移動制限が課せられている。陽性馬は治療を行い、3 回陰性が確認されるまで APQA にて検査される。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

非定型筋障害

2018 年 10 月にスイスにおいて、4 例以上の非定型筋障害の発生が報告された。現在のところ、それ以上の情報はない。

ピロプラズマ病

2018 年 11 月 22 日に、ピロプラズマ病の発生が 1 例報告され、PCR によって診断された。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2018 年第 4 四半期の中に、多くの集団発生が以下の通り報告された。

- 2018 年 10 月 15 日、1 ヶ所で 6 頭に集団発生を認め、PCR により診断された。
- 2018 年 10 月 27 日、頭数は報告されていないが 1 ヶ所で集団発生を認め、PCR により診断された。
- 2018 年 11 月 5 日、PCR により診断された 1 例が報告されている。
- 2018 年 12 月 2 日、1 ヶ所で 3 頭に集団発生を認め、PCR により診断された。

トルコ

ウエストナイル熱 (WNV)

2018 年 10 月 3 日、ワクチン接種を受けていないサラブレッド種において 1 例確認された。トルコは野鳥が移動する経路に位置しており、最近の届出によると、トルコ国境に近いバルカン半島にて WNV の集団発生を認めている。本疾病の原因は野鳥の移動と関連があると考えられている。診断はエトリッキ中央獣医研究所にて、RT-PCR、RRT-PCR によって行われた。

アラブ首長国連邦 (UAE)

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第4四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

東部馬脳炎 (EEE)

2018年第4四半期には本疾病の症例数は激減し、報告は3例のみでいずれもニューヨーク州であった。

ウマヘルペスウイルス (EHV) による疾患

EHV-1 および EHV-4 による感染は多くの州で発生し続けており、特に子馬の呼吸器疾患と関連している。EHV-1 による流産が5例、EHV-4 は1例報告されている。EHV-1 による神経型疾患がアリゾナ州とカリフォルニア州の2州で発生し、それぞれ単発症例であった。

ウマヘルペスウイルス 2型 (EHV-2) および 5型 (EHV-5)

EHV-2 あるいは EHV-5 の発生が複数報告され、呼吸器症状を呈した症例も認められた。

馬伝染性貧血 (EIA)

コロラド州 (3例)、テキサス州 (2例) で EIA が報告された。

馬インフルエンザ

アメリカにおいて馬インフルエンザは風土病である。本期間では7州で発生が認められた。3ヶ所にて複数症例の発生が確認されている。

馬のネオリケッチア病 (ポトマック熱)

ケンタッキー州において、ネオリケッチア病による流産が2例確認された。

レプトスピラ症

ケンタッキー州において、レプトスピラ症による流産の発生が4例確認された。

馬増殖性腸症

ケンタッキー州において、*Lawsonia intracellularis* 感染による馬増殖性腸症が 8 例確認された。

ロドコッカス感染症

アメリカ合衆国においてロドコッカス感染症は風土病である。本期間では、3ヶ所での発生が報告されたただけであったが、未報告が数多くある可能性がある。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

アメリカ合衆国において腺疫は風土病であり、18州で 34 件の発生が報告された。少なくとも 68 頭が本疾患と診断された。2州で複数の発生が認められている。

ウエストナイル脳炎 (WNE)

ウエストナイル脳炎の発生頻度は衰えておらず、本期間で 80 頭が報告されている。本疾病は国内に広く分布している。